Report on the Village in Shanxi Provience (1) : The Village of P County in December 2009

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30437

日本海域研究，第42号，95-112ページ，2011
Nihon-Kaiiki Kenkyu, vol.42, p.95-112, 2011

山西省農村調査報告（1）－2009年12月，P県の農村

行龍[1]・郝平[1]・常利兵[1]・馬維強[1]・李嘎[1]・張永平[1]
（弁納才一[2※]訳）

2010年9月17日受付，Received 14 September 2010
2010年11月11日受理，Accepted 11 November 2010

Report on the Village in Shanxi Province (1)：The Village of P County in December 2009

Long XING[1], Ping HAO[1], Libing CHANG[1], Weiqiang MA[1], Ga LI[1] and Yongping ZHANG[1]
(Translated by Saiichi BENNOU[2※])

Abstract

Researchers from both Japan and China carried out a hearing investigation in December 2009 in the village of Shanxi Province in China. The village chosen for this investigation is D Village in P County. First, we surveyed the village, and had the managing staff of the village explain us about the general conditions of the village.

This paper is Japanese translation for the report, which contains the contents of hearing investigation that the researchers of Research Center of Chinese Social History of Shanxi University recorded. The writer who participated in this hearing investigation translated the contents into Japanese.

All villagers' real names were not included in this paper in careful consideration to the protection of their privacy.

The main contents of this hearing investigation are the individual history of the villagers who previously served as the managing staff in the village, and spread various fields in such cases as the general conditions of the village, the politics, the economy, the society, the family, the geography and the religion from the time of Anti-Japanese War until now. Members of the Roman Catholic Church are included in the hearing about the religion.

We could survey various family relations, human relations, and so on by this hearing investigation as to the general conditions of the investigated village. The points which we should pay attention to for the next hearing investigation was made clear from this investigation.

Key Words: North China, Shanxi Province, village, history
キーワード：華北，山西省，農村，歴史

[1]山西大学中国社会史研究中心　中国山西省太原市塢城路36号（Research Center of Chinese History, Shanxi University, 36 Wucheng Rd., Taiyuan, Shanxi Province, China）
[2]金沢大学人間社会研究域経済学経営学系　〒920-1192 石川県金沢市角間町（Faculty of Economics and Management, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University, Kakuma-machi, Kanazawa, 920-1192 Japan）
*連絡著者（Correspondence author）

Ⅰ．はじめに

本稿は，山西大学中国社会史研究中心と共同で2009年12月後半に実施した山西省P県D村における調査のうち[注1]，山西大学側による聞き取り内容を邦訳したものである。なお，邦訳にあたっては，プライバシーの保護を考慮して村民の実名は極力ふせることにした（人名の表記にあたっては，例えば，毛沢東[Mao ZeDong]の場合はMZDとする）。また，最後に，参考として山西大学側が作成した当該調査村の地図を付した。

Ⅱ．訪問者全員による聞き取り[注2]

1）村の概況

聞き取り日時：2009年12月18日14:24～

聞き取り場所：P県城内東南海賓舎

聞き取り対象者：LRX（60歳，丑年，1949年7月生まれ，村書記・村長）
CPJ（52歳，酉年，1957年生まれ，村副書記・副村長）
WYL（44歳，辰年，1965年生まれ，村会計）

概　況

・本村は1948年に解放された。現在，人口3,243人，戸数911戸，総面積8,700畝，耕地面積6,013畝である。1戸当たり平均年収3,700元。W姓・T姓・H姓が多く，そのうちW姓は80％を占めている。

・村民委員会委員と党支部委員は各5人だが，書記が村長を兼ね，また，副村長が副書記を兼ねているので，村幹部は全部で8人（婦女聯主任が1人）である。村費を徴収していない。村内の街灯などの設置は国が費用を支出した。

産　業

・主要な産業は農業で，主に玉蜀黍・冬小麦・高粱を栽培し，リンゴの木が少しある。玉蜀黍は基本的には全て1斤0.8元余りで販売する。高粱は一般的には食べない。玉蜀黍の生産量は，1畝当たり1,000斤以上だが，今年は品種が改良されたために1,500斤に達したところもあった。小麦の生産量は1畝当たり約700斤である。小麦は冬小麦と豆類の二毛作が可能だが，現在は玉蜀黍を栽培する者が多く，玉蜀黍の茎は肥料としている。国は食糧生産を支援するために1畝当たり約50元の補助金を出している。

・蔬菜は村民が自家消費分を少し栽培する程度で，ビニールハウスは無い。

・300頭余りの牛がおり，多くは乳牛で，蒙牛企業の代理商人が買付に来る。豚は1戸当たり2～3匹いる。4万羽余りいる鶏は鶏肉よりも鶏卵用が多い。

・本村には7～8軒の小売店（全て個人営業）がある。

・全村人口の15％に当たる者が村外へ出稼ぎに行っている（太原に行く者が多く，省外まで行く者は少ない）。大豆から搾油する油坊で働く者も数人いる。油坊から出る大豆粕は主に牛や鶏の飼料となるが，肥料としては用いない。肥料は，主に化学肥料が用いられ，豚・牛・羊などの畜糞も多く用いられる。

教　育

・かつて本村がW郷に属していた時には，中学校があったが，現在は小学校のみで，約300人が学んでいる。中学校は1996年にWに合併された。高校進学率は90％で，大学進学者は医学を学ぶ者が多く，運城や太原などの省内の大学に進学する者が多いが，黒竜江省や西安などの大学に進学する者もいる。村民委員会が大学受験者に奨励金を出したことはない。

医　療

・現在，本村には衛生所が4ヵ所あり，全てが合作医療で，立替金の精算をすることができる。医療費の精算額は，今年は1人当たり30元で（去年は20元，2年前は10元），薬代の精算額は60～70％だが，郷鎮医療の精算額は最大で90％以上にも達した。合作医療に加入するか否かは自由だが，本村の加入者数は93%以上に達している。4つの衛生所は全て漢方医と西洋医学が結合し，医者は全て本村人である。かつては4～5名の裸足の医者がいた。

W家の祠堂

・かなり昔，W家は兄弟3人が一緒に本村に移住して来たと聞いている。W家の祠堂は土地改革で没収されてから生産大隊が管理し，頭道街・二道街・三道街に1つずつあったが，その建物はほとんど倒壊している。

水資源

・本村には深さ約150mの井戸が20余りあり，7～8

年前に作られたもので，1つの井戸を掘るのに約4万元を費やした。農地の灌漑には井戸と汾河によるものがあり，全て個人で行う。灌漑費用は各種の経費を含めて1畝当たり約60元で，水のみの費用は1畝当たり約40元である。

集(会)と廟

・本村内に「集」はないが，毎年旧暦4月5日に廟会があり，出かける人はとても多い。廟会で露店を出す者はお金を出さない（かつてお金を取ったことがあったが，罵られたので，取らなくなった）。廟会は1日だけだが，演劇は3日間続けられる。かつては本村内に廟がたくさんあったが，その中のいくつかは太原が解放された時に地下道を掘る工事などで木材が必要だったので壊された。現在，老爺廟（関帝廟）・観音廟などの3つだけが残っている。

カトリック教会

・本村にはカトリック教会が1つあるが，文革の時に破壊され，約10年前に修築された。信者の割合は高くないが，県城の教会へ礼拝しに行く者もいる。

婚姻と計画出産

・現在，自由恋愛による結婚が多い。平均結婚年齢は男女とも22～23歳で，結婚費用は一般的に部屋や家電製品などを含めて10万元以上となる。

・第一子が男子であれば，第二子の出産は許されない。第二子は男女を問わず，5,000元の罰金を科され，さらに第三子を出産すれば，1,500元の罰金を科される。もし第一子が女子であれば，第二子の出産が許されるが，第二子が男女を問わず，第三子の出産は許されず，もし出産すれば，罰金を科される。

1960年前後の状況

・本村はこの辺りでは餓死者が最も多く，1960～62年が最もひどく，蝗の害がかなり深刻で，手で蝗を捕まえて駆除した。

2）1960年前後の状況

聞き取り日時：2009年12月19日9:40～
聞き取り場所：D小学校
聞き取り対象者：LRX

・最もひどかったのは1960年で，200人以上が餓死したと聞いている。本村の最高齢者は私の母親で，今年97歳だが，当時は村から出て行った者はいなかったという。山東省で災害が発生すると，山西省へ逃避してくる者が多く，多くの人が本村にやって来た。その多くは2～3人一緒で，乞食をして長居はしなかった。私の家にも乞食がやってきた。

3）村内の参観

参観時間：2009年12月19日10:05～，12月20日15:00～
参観場所：D村内の天主教堂

村民委員会

・MWB（もと治保員。65歳，酉年）によれば，D村民委員会はもともとは関帝廟で，村民は老爺廟と呼んでおり，二道街・一廟東街と東南北街の十字路の西南側にある。廟内には左右にそれぞれ石碑があり，保存状況はかなり良い。右側の石碑には「重修関帝廟碑記」とあり，石碑の大部分が炭で覆われているために全ての内容を読み取ることはできない。左側の石碑には人名と奉納額が記されており，奉納者には近隣村の者もいる。落款の時期は民国10年となっている。関帝廟の破損はかなり深刻で，正殿は完全に破損している。関帝廟は1970年まではD村の学校として使用されていた。関帝廟の向かい側にかつて演劇の舞台だったところ（老戯台）がある。

狐の飼育場

・頭道街のカトリック教会の近くに狐の飼育場（戸主は38歳のW氏）があり，200匹余りの狐や狸がおり，毛皮1枚を300～400元で売っている。小屋の中には300枚余りの毛皮が掛けられており，毎年，1,000枚余りを売って4万元以上の収入を得ている。狐はフィンランドから太原に輸入され，毛皮の一大市場がある河北省辛集から毛皮を買付に来る。主にロシアへ販売している。

王家祠堂

・頭道街中段路の南側と二道街西口路の北側にW家の祠があるが，破壊の程度は極めて深刻である。

糖棗作坊

・頭道街西段路の北側に棗を材料としたお菓子を作る作業場がある。作業員は6～7人で，大部分が女性だった。

金堂廟

・頭道街西口路の南側に金堂廟があり，保存状況は良好である。

カトリック教会

・以前は非常に壮観だったが，「破四旧」の時に正門が破壊され，後に修築されたが，もとどおりにはならなかった。本村には30人余りの信者がいる。

・12月20日午後，男性7人と女性13人の計20人（うち6人が子供）がミサに参列していた。礼拝を主催する神父は祁県の人で，高校卒業後に楡次へ行き，さらに北京の神学校で7年間学んだという（専門はキリスト論）。神父によると，現在，中国には11の神学校があり，P県に最も早くカトリックを伝えたのはイタリア人宣教師で，P県内には教会が10ヵ所あるという。

Ⅲ．行龍・馬維強による聞き取り

1）村落史

聞き取り日時：2009年12月19日午後

聞き取り場所：WZX宅

聞き取り対象者：WZX（78歳，未年，1931年生まれ，村の主任・副主任・党支部委員を歴任），WYX（66歳，村の副書記・会計を歴任），LRX

抗日戦争時期

・日本兵が子供にお菓子をあげたことがあったが，みな日本兵を怖がっていて，女性たちは頭髪を垂れ下げ，顔を墨で黒く塗り，ぼろぼろの服を着て，日本兵から身を避けていた。村民が日本兵に会った時に敬礼をしないと，びんたをくらったり，蹴られたりした。また，村内では皇協軍がいつも活動しており，勝手に人を捕まえたりした。さらに，県城には憲兵隊がいて，いつも庶民をいじめたり，冷たい水をかけたり，腹いっぱいに水を流し込むと，腹を押して水を吐き出させたりした。日本兵は2人の村民を殺害し，副村長の家を含む4～5軒の家を焼き払い，天主教道北巷では1人の女性を輪姦した。

解放戦争時期

・日本兵が投降した後，本村は閻錫山の二戦区に属した。当時，閻錫山は「兵農合一」政策を実施していた。閻錫山部隊は村に駐屯して食糧を強奪し，村民にご飯や料理を要求し，村民が食糧を運んでいくと，運んできた量が少ないと不満に思い，その村民を殴ったり蹴ったりした。

・当時，「兵農合一」は労働力に応じて土地を分配したが，本村は人口が多く土地が少なかったので，土地を与えられた者は少なかった。WZXの家は7人家族で，父親は日本兵がやって来た時に死去し，家には母親・3人の妹・弟・姉が残された。もともと15畝の土地があったが，「兵農合一」によって土地は3畝になった。食糧を買うことができず，弟と1人の妹が餓死した。

土地改革時期及び建国初期

・本村では1948～49年に土地改革が行われ，農民は皆立ち上がった。解放したばかりの時，本村で長工をやっていた雇農の二頼子が村長になったが，うまくやれなかった。後に，本村には貧協会が成立し，GZLが主席を務め，女性の翠子も指導者となり，他に3～4人が幹部となった。工作隊がやって来て土地改革を行った。その中の古参党員のZMGは後に本村に留まった。WZZ・LXK・WHR・WYSなどの地主が村公所（老爺廟）で吊し上げられ，村民は彼等を跪かせて殴ったりしたが，殴り殺された者はおらず，階級闘争は比較的穏便だった。彼等の財産は没収されて貧しい者に分配された。

互助組・合作社時期

・本村には1952年に2つの互助組が成立し，WZXが20戸余りからなる第一の互助組を指導し，10戸余りからなる第二の互助組はWFSが指導した。1953年には22戸からなる初級合作社が組織され，WZXが社長（主任）となり，DEHが書記となった。この時，60～70％の村民が互助組に加入していた。初級合作社は土地と労働力に応じて4対6の割合で利益配当を行った。1954年には120戸からなる勝利社・70戸余りからなる和平社・60戸からなる建設社の3つの初級合作社があった。初級合作社の生産量は上昇し，単独でやるよりも強くなった。1955年には90％以上が初級合作社に参加し，1956年には高級合作社（紅旗社，大社）が成立し，99％の農家が加入した。

大躍進時期

・1958年，鍋や鉄を叩き潰して城南と城東の製鉄工

場へ持って行って製鉄に従事し，普洞でも製鉄に従事した。300～400人の村民が三道街に集合した後，指定された地点までテントを運んで，山上に住み込んだ。村に残された老人・子供・婦人は労働大軍と呼ばれ，村の幹部に引率されて洪善大公社に集合させられ，土地を深く耕した。当時，労働大軍は自分の椀・箸・布団を持参していた。1958年にはさらに村に躍進隊が成立し，まじめに仕事をしない劣悪分子や無頼漢などがこの躍進隊に送られて労働に参加した。大躍進の頃は，生産量が上昇しなかったが，1畝当たり1万斤の穀物（万斤穀）が生産できると誇張された。また，仕事ぶりの良い順に衛星・飛機（飛行機）・火車（汽車）・馬・牛・猪（豚）に等級が分けられた。

3年間の困難期

・本村は人口が多く，畑は干上がり，120人余りが餓死した。この時期は，主に野草・玉蜀黍の芯と殻・草の根・高粱の殻などを窩頭や麺にして食べた。老人は皆食べ惜しんで子供たちに食べさせたので，餓死した者の大部分は老人だった。当時，村人で餓えていた者は棺桶さえも担げなかった。

四清運動時期

・四清運動の時，省や県から派遣された工作隊には太原医学院や地区部隊など20人余りがいて2人で1つの小隊となっていた。LRXは四清運動の積極分子だった。PYLは四清工作隊隊長で，歴史や政治を語るのがうまく，人付き合いも良かった。朝から晩まで会議を開いて，幹部は20日間余りも公社に集められて自己の過ちを説明することを要求され，睡眠も遮られ，トイレに行くにも人が付いてきた。説明が終わると，工作隊は村に戻って村民に尋ね，村民がだめだと言えば，検査をパスできなかった。当時，WZXは治保主任を務めていたが，気にくわないと思う人が多く，ずっとパスできなかった。

文化大革命時期

・1966年，文革が始まり，本村はWRXを頭目とする総司とLRXを頭目とする聯絡站の両派に分かれた。この時期は総司が権力を掌握したが，武闘は激烈にはならず，殴り殺された人はおらず，生産はずっと正常で，比較的平穏だった。後に，農業は大寨に学ぶ運動のために，村の幹部が2回大寨に行った。村に戻ると，大寨のやり方に学び，畑を深く耕し，土地をならし，用水路を作り，アルカリ地を整理し，冬至の翌日から81日間，畑に糞を運んだ。

2）WZXの個人史

聞き取り日時：2009年12月20日午後
聞き取り場所：WZX宅
聞き取り対象者：WZX

WZXと家族の歴史

・3～4歳頃，祖父が死去し，その1～2年後に祖母（本村から7～8里離れたL村の出身）も死去した。12歳の時，父親が死去し，母親（L姓）はP県城の出身だった。母方のおじが5人はみなP城内で商売をしていたが，そのうち2人が日本兵がP県城に侵攻した時に殺された。1人のいとこはトラック工場で働いていた。私には5人の兄弟姉妹がいたが，兵農合一が行われた時期に弟と妹が死んだ。6つ年上の姉はP県城内に嫁ぎ，商売をしていたが，すでに死去した。75歳になった妹は太原に嫁ぎ，機械製造工場で働いていた。寅年生まれで72歳になった2番目の妹はP城内に嫁いだ。

・私は小学校を卒業したが，家が貧しかったために1年のうち何日かは学校に行けなかった。正月から老爺廟で勉強し始め，春耕（清明節の頃）が始まると学校に行けなくなり，冬の農閑期に再び学校へ通った。貧しい家の子供はみなこのようだった。私は7～8歳頃から学校で学び始めたが，12歳の時，母親が亡くなると，再び学校へ行くことができなくなった。本村には2人の教員がいて，2人とも本村人で，村公所に選ばれた教養のある人だった。

・私は，本村で38年間も幹部を務めたが，書記になったことはない。村民は私のことを村の中の閻錫山だと思っている。私は，1952年に互助組の組長，1953年に22戸からなる初級合作社の社長，1954年に120戸からなる勝利社（初級合作社）の社長，1956年に紅旗高級合作社の副社長になり，主に生産部門を管理した。1959年後半期から文化大革命まで前後18年ずっと主任を務めた。1954年からは党支部委員になった。

・妻（田家堡出身）は9年前に死去した。結婚した時，妻は18歳で，私が7歳年上だった。その時は互助組や初級合作社が組織された頃で，共産党は見栄を張って浪費することをさせず，花嫁を輿にも乗ら

せず，馬にも乗らせず，銅鑼も打たせなかった。共産党が先頭に立って指導することを求め，自転車に乗り，嫁入り道具は鋤・鍬・鎌などの4つの農具だった。当時，10卓の宴席で接待し，親戚も多く，1つのテーブルに6人が座り，2つの冷菜と2つの料理の4皿が出された。「婚席」（結婚当日の晩に行われる儀式で，主にご飯を食べたり，数人の若い人が新郎新婦をからかう）では9皿の料理が出されたが，これはやや良いほうで，普通は4つの小皿である。

・私には5人の子供がいるが，長女のWLZは城内に嫁ぎ，その夫は裁縫をしている。長男のWCG（幼名は六日）は，現在，陽泉炭鉱で働いており，家族は陽泉にいる。次女のWNZはN村におり，次男がWGLで，末娘はまだ結婚していない。私は，比較的清廉でやってきた。どの子も労働者にしたことがなく，家に部屋が足りず，住むことができなかった時，次男に部屋を3間与えることには批准したが，より大きな5間を与えることに批准したことはなかった。

大躍進

・若者はみな村外で製鉄に従事し，私は老人や身体障害者などを率いて畑を深く掘り起こした。部隊と同じように，米・麺・料理・炭を持参して食堂に行って食事をした。さらに，当時は銅鑼や太鼓を打ち鳴らし，演舞台を組み立てて競争したが，実際は労働ではなく，単なる馬鹿騒ぎにしかすぎなかった。

農業は大寨に学ぶ

・大寨には2回行き，村に帰ると，労働力を結集して昼となく夜となく，また，冬も休まず働いた。主に水を汲み，アルカリ地を抑え，畑を深く掘り起こし，土地をならした。あの頃掘った用水路はみな今でも残っていて使われているが，浅くなってしまい，土地が良くなく，アルカリ地が多い。

祠堂と祭祖

・本村には商売をする人が多く，票号で大商いをしたり，多くの人を率いていた人もいた。以前，本村には古い物が多く，廟も多かった。W家は3つの祠堂を持ち，T家は1つの祠堂を持っていた。もともと三道街にあった祠堂が最も大きかったが，現在は二道街にある祠堂が大きい。現在残っている3つの祠堂には装飾・陳列はなく，ただ2つの部屋が残っているだけである。

・去年は「祭祖」（祖先を祀る）の活動がなかった。活動の主要な内容は家譜を取り出して壁に掛け，年越しに「祭拝」を行う。例えば，29の「神子」（位牌）を配置し，新年の5日が過ぎると，また片付け，全部で7日間行う。さらに，家譜に新たに増えた人口，男か女か，一代一代を書き加えていった。WZXの祖先は第17代の時にここに移り住んで来た。「祭祖」の儀式に行くかどうかは自由で，行く人もいれば，行かない人もいる。

・解放後，経済的な困難と共産党の政策により，「祭祖」の活動をやる人がいなくなった。文革期に毛沢東思想宣伝隊が村にあった2つの家譜を持ち去ったが，私の家の家譜はおじが工作隊の責任者だったので持ち去られなかった。

廟

・本村には老爺廟・舞台・天主堂・観音堂（経堂廟）・西廟（大廟）がある。西廟に祀ってあるのは大神で，だいたいは四海龍王である。その他，西廟には閻王殿と送子観音廟（娘娘廟）があり，太原が解放された時，木材が必要だったので壊された。この他にも中寺・後寺がある。中寺は本村の供銷社の後側の四道巷東口にあり，弥勒仏が祀られ，後に生産大隊はそこで副業を行った。後寺は真北側の村の外にあり，現在，部屋は修理されている。これらは全て大廟で，その他に小獅子廟がある。小獅子廟は東側にあり，どんな神を祀っているのかははっきりしない。解放前は，これらの廟の中にある神の像を見たことはなかった。この他，村のそれぞれの道には五道爺廟があった。東側には村を鎮護する河神廟があり，3つの大神像が祀られていて，庶民はこれを三官廟と呼んでいたが，毛主席の時代に破壊されてしまった。

Ⅳ．馬維強による聞き取り

1）村の政治・思想・信仰

聞き取り日時：2009年12月21日9:14～11:30・15:16～17:34

聞き取り場所：WZX宅

聞き取り対象者：WZX，WZ（80歳，午年），TBS（72歳，寅年），FBY（66歳，申年），LPC（76歳，

戊年）

毛沢東思想宣伝隊

・沢東思想宣伝隊には30人余りいた。WGXが婦女聯主任，WYRが書記，JSLが政治工作委員だった。彼らは，模範演劇をやったり，「秧歌」の形式を取り入れた歌劇に改編したりして，主に毛沢東思想を宣伝した。

毛沢東思想学習班

・運動が始まると，2種類の学習班が作られ，参加するのは2種類の人間だった。1つは思想を高める必要のある幹部で，もう1つは盗み・暴力沙汰・賭博などの過ちを犯した社員である。全ての県政府と人民公社にあった。

・賭博をする人がいたが，賭け金は多くても5元だった。祭祀活動は許されなかったが，大目に見ていた。LPCはいつも偽のお金を作って使っていた。

党　員

・党員の予備期間は一般的には3年だが，積極的な働きがあれば1～2年で正式の党員になることができた。村では党員に対して1年に1回の評定を行った。評定は党員の8項目の基準によって行われた。WZXといっしょに入党したのは，群衆を動員して余剰の食糧を納めた女性のZYP・TLYと大隊貧協会主席のWHだった。私は公社へ行って政治学習するのは良いことだと考え，学習班に20日間いた。少数の平素の態度が良い党員は郷や県へ派遣されて国家の形勢を学習したり，「農業は大寨に学ぶ」会議などに参加したりした。毎年，冬に三幹会が開かれ，ほぼ7～10日間，村の幹部がその年の工作の総括報告をし，上級幹部が次の年の任務を割りふり，さらに毛沢東思想の理論や科学的な農作業などを学習した。

カトリック信仰

・現在，本村では7～8戸の約30人がカトリック信者で，会長はTHである。他人に入信を勧めることはなく，個人の意志で信者となり，一般的に信者は家の中で伝える。信者は本村や県城で礼拝をし，大きな紀念日には聖母昇天などがある。信者は焼香や頭を地につける礼はしないが，清明節にはやはり墓参りに行く。11月2日には「追思以往」（亡くなった人を思う）節を過ごす。FBYはもともと汾陽教区天主教神父のFZCの甥で，その父親はFGXで，祖父はFSMである。現在，1人の息子と2人の娘がおり，その息子の嫁と娘婿が入信し，もう1人の娘婿は「大教」（儒教・仏教・道教）を信仰している。信者に対する管理は比較的寛容で，厳格な規律はない。

・村にいる信者は二隊と三隊に集中し，十隊にも信者がやや多い。四清運動が始まってから1978～79年頃まで，国は信仰を許さなくなった。祠堂や教会堂は第3小隊長のWLJによって占領された。本村ではもとカトリック教会会長のTCYとその妻のZYYに対して闘争を行ったが，T氏は気質・人格も良く，老人や子供といつも談笑していたが，それをネタに捕まえられて闘争にかけられた。昼食の時，村の幹部はT氏に銅鑼をたたかせて紙の帽子を被らせながら半日村中を練り歩かせ，午後は畑で働かせた。本村の信者は血の償いをしたことはなく，闘争は比較的平穏だった。

四類分子

・四類分子は早朝に街路を掃除しなければならないが，労働点数をもらうことはできず，普段の仕事も他の人がやりたがらない仕事をしたが，進学・入隊・就職・休暇願・労働点数などで差別された。

2）WXRの個人史

聞き取り日時：2009年12月22日9:16～11:30・15:13～17:34

聞き取り場所：WXR宅

聞き取り対象者：WXR（76歳，戊年，1934年12月14日生まれ，1958～65年治保主任，1965年より20年余り書記）

結　婚

・妻のZYLは，1938年12月24日にP県N鎮N村で生まれ，2005年に死去した。本村にはN鎮の棉花工場で臨時工として働いていた村民がいて，その人の紹介で1964年に結婚した。当時，新式結婚の呼びかけに応じて，しかも私は共産党員で，妻は共産党青年団の団員だったので，浪費せず，婚礼も非常に簡単で，部屋を少し掃除し，新しい服を着て，私が自転車で妻を迎えに行き，自分の家で親戚や友人を招待してありあわせの食事をした。冷菜2皿と料理2皿を並べ，幹部は招待しなかった。結婚した後，妻は主に家事をやりながら，少し公共活

動にも参加した。

家　族

・父（WDC）は介休県八興武村で大工をやっていたが，私が16～17歳頃に死去した。母は専業主婦で，1974年に死去した。長女（WYH）は本村のWFL（もと第6小隊長）の息子のWYFに嫁ぎ，2人の子供がいる。次女（WYP）は本村の「四児」（もと電気工）の息子に嫁ぎ，一男一女を産んだ。長男（WWM）は本村の「明日家」（霊石の南関発電所の労働者）の娘を娶り，子供が1人いる。三女（WYL）は南政村のJCRの息子（農民）に嫁いだ。四女（WYQ）は西游駕村のWP（農民）に嫁いだ。五女（WYM）はP城内に嫁ぎ，娘婿は内装の仕事をしている。

学習工作

・解放前，家が貧しく，学校で勉強することができなかった。本村が1948年に解放された後，2年半学校で勉強したが，その時はすでに14～15歳になっていた。学習内容は国語・算数・「常識」（一般教養？）で，教師は本村の人だったが，県城出身の教師もいた。毎日，6～8時は算数を勉強し，ご飯を食べた後は国語の勉強と自習をし，午後は「常識」や体育などの授業があった。1951年に退学してN村へ行って木工の技術を学んだ。

互助組

・1年半後，村にもどって互助組に参加したが，互助組の意義はあまり大きくなく，ただ十数人が同意すれば組織することができ，一般的な協力は隣人・親戚・友人とやることが多く，労働生産で相互扶助を行うもので，報酬はなかった。小さい頃，私はWZXとよくいっしょに遊んでいたので，WZXが責任者となっていた互助組に参加した。

・1953年，互助組を基礎として，TEHが数戸を吸収して22戸からなる農業生産合作社を成立させ，土地をいっしょにして集団で耕作し，土地と労働力を4対6の割合に分け，収益の4割は土地所有者の収入（食糧ないし現金）とし，6割は集団（合作社）の収入として現金を労働に応じて配当した。

・1954年には勝利社・和平社・建設社の3つの「大社」（初級合作社）が成立し，分配のやり方では出資した土地に対する分配がなくなり，全て労働力に応じて分配された。この時，労働力のない家は入社しておらず，180戸が残った。入社は自由意志を原則としていたが，村の中では動員活動を行った。私は勝利社で作業組の組長を務めた。

・1956年には高級合作社が成立し，分配のやり方には大きな変化はなかったが，本村では1～2戸が合作社に入社せずに残っていた。GZLが高級合作社の主任を務め，TZHが書記を務めていた。

・1958年には人民公社が成立し，本村の村民全員が入社した。

大躍進運動

・1958年3～4月，若い労働力は全て山に入って土法製鉄を行い，あとに残された女性や老人が野戦団を形成した。

・8月，県の公安局と検察院が盗人，投機取引をした者，殺人の容疑者など40人余りを村に連れてきて躍進隊を組織し，半年ほど労働に従事させたが，最後には70～80人に増えていた。これらの人の中には，はっきりと調べがついた者，説明しても判決を覆せなかった者，終始一貫して自分の罪を認めない者などがいた。例えば，GHは貧農協会主任を殺した嫌疑をかけられ，初めは認め，翌日は否認したが，多くの人が一緒にことの経緯を推断した。後に判決が下ったり，釈放されたり，賠償して出て行った者もおり，最後には20～30人が残った。みな昼は働き，晩には戻ってきて人の輪を作って立ち，過ちを犯した人を真ん中に立たせ，周囲の人がこづいて過ちを説明させた。

３年間の困難な時期

・保衛は食糧を盗んだ者を殴ったり，吊したり，縛ったりして，罰金を記帳した。罰金は，1個の玉蜀黍を盗めば0.5元で，高粱は0.2元だった。WZの妻は離婚したことがあったので自留地を持参しておらず，家にはただWZ1人分のわずかな自留地しかなく，食べていけなかった。夜，彼は馬車に乗って仲間3人と食糧を盗みに行き，書記のWXHに見つかって逮捕され，1人約40斤の高粱の穂を盗み，400斤の食糧を罰金として科された。治保主任だった私は，縛ったり，吊したり，殴ったりしたので，華北局へ告訴され，華北局から人が村に派遣されて調査が行われ，村にこのようなことがあったことが確認された。懲罰を実施し，70～80袋が没収されて盗んだ証拠とされた。後に，私は各家庭に対して縛ったり，吊したり，殴ったりしたことを謝罪し，1袋につき5尺の布で償ったが，公社主任

のJWHがやって来て，思い切って盗人を捕まえるように要求し，さらに自分で村の中で盗人を捕まえた。

四清運動

・1962年，国が双十条を決定した。前十条の内容は「四権下放」（「十(湿)辺地下放」(アルカリ地や社の基地)・「樹木下放」(家屋の周り)・「羊群下放」・「自留地下放」)だった。数ヶ月して後十条が決定されて前十条(「四権下放」)が批判され，階級闘争を要とするようになった。四清運動中，幹部は多く食べて多くを自分のものにしたが，汚職はなかった。

・私は治保主任になって多くの人に嫌われて検査をパスできない時期があったが，後に党支部書記になることができた。当時，PYLは霊石県にいたが，指導員は025部隊のW某で，幹部はみな公社の三幹会に集められ，群衆が幹部を分類したのに基づいて，私は最も厳しい列に並ばされ，公社に行くにも深刻であるか否かによって2つに分かれた。トイレに行くのに話をすることができず，教室の入り口には保衛がいて勝手にはぶらつくことができず，面と向かい合って話をすることも許されず，もしそういうことをすれば，政治的な同盟を作ったと見なされた。オンドルの上で寝ることもトランプをすることも許されず，同時に問題がはっきりと説明されているかを問い質された。問題がある者は説明しなければならず，やり方は硬軟取り混ぜ，工作隊と貧下中農が調べて確かめた。会計のZWZは少し汚職があり，夜に公社の葡萄畑へ逃げたが，追いかけられて見つかると，彼は死にたいと言った。私は1回目の検査の時にすでに関係している問題をはっきりと説明したが，工作隊は私の問題は一回ではっきりと説明することはできないと考えていた。

・大隊支部の主要な幹部は村に戻ってから全村500～600人の大会で検査をパスし，小隊幹部は小隊で検査をパスし，参加者は畑で働いた。私はちょうど検査が終わると，ある人が私の問題を摘発し，私が7軒の家で賭博をした者を捕まえ，20人の身上を捜査し，2,600～2,700元を摘発したと言ったが，実際は1,000元を差し押さえて戻ってきて預けて記帳した。後に調査を経て何も問題がないことが証明されたが，当時は，500元の要訴追事件として提起すると，1,000元のレッテルを汚職分子に貼らなければならなかった。大隊幹部の中で検査をパスしなかったのは私1人だけだった。私がちょうど治保主任を務め始めると，人にいやがられていたので，群衆大会では検査をパスできなかった。四清運動中に処分を受けたのはWXHと書記だけだった。当時，富農のWFの娘のWYXが大学に進学すると，WXHの家で電灯をつけるのにWFの家の電灯線を用いたので，丸め込まれて紹介状に中農と書いて渡し，党察で1年の留置という処分を受けた。後に，W書記は工作隊と喧嘩をして党から除名されたが，後に名誉が回復された。

・当時は「清隊」（生産隊を清める）を以て主とし，主要な幹部は「四不清」（4つの点で清廉潔白でない）と考えられており，第2小隊婦女聯隊長のDCHは共産党員で，文水から本村のCYHの家に嫁いでから間もなかったが，比較的清廉潔白だったので，四清領導組組長に選ばれた。工作隊は1965年2月から1966年1月まで村にいた。四清運動が終わると，Dが党支部書記に選ばれた。私をいやがる人が多かったので，党支部が討論して私を公社に異動させることにしたが，Dが反対した。当時の県長はSZMで，夫が忻州で仕事をしていたので家にはおらず，書記になって2～3ヶ月しか経っていない村書記が公社に異動させられたので，Dは私が村書記に推薦されると考えた。

文化大革命

・文革では国家が《十六条》を下達し，村幹部たちの学習を組織したが，当時，私は農民である自分には関係ないことだと考え，学習に行かなかった。何日も経たないうちに各地から高校生が村にやって来て「破四旧，立四新」を求め，兵団や各種の組織を成立させ，文化革命戦闘隊（新宇隊）を作り，家譜を没収し，壁の人物画も破壊した。

・村は総司と聯絡站の両派に分かれ，戦闘隊は瓦解した。私は総司派で，当時毛沢東思想宣伝隊の責任者だったWXNは聯絡站派だった。文革が始まった時，私とJSLは治保主任と副主任に任ぜられ，毛沢東思想宣伝隊の活動に責任を負い，費用は大隊には要求せず，自ら青年を組織して人に力仕事をさせて金を集め，舞台のセットを買った。私が党支部書記になってからは，団支部書記のDCQが宣伝隊の責任を負い，金や物を要求したが，差し

出さなかったので，恨みが積み重なった。WXNとDCQは私に資本主義の道を歩む実権派だと言って反対し，大隊に大字報を書かせた。造反派は張り出した大字報に私の名前を逆さまに書いていた。ただし，村の闘争は平和で，奪権もなければ，殴り合いの喧嘩をしたこともなかった。

・後に両派の対立はエスカレートしていった。「聯字号」で陳永貴がP県にやって来たとデマが飛んだが，総司派は毎回会えなかった。1回だけ陳永貴が本当にP一中にやってきて，総司派が陳永貴に会いに行ったが，陳永貴が中央政府に自分が拉致されて腕を抜けるほど叩かれたと電報を打つと，太原の紅総（聯絡站）と聯総（総司）がP県にやって来て，P県の総司派を捕まえた。陳永貴が太原に戻る途中で，総司派は陳永貴のデマを知ると，両派は太谷でも衝突して武闘となった。

・WXNの長男は聯絡站（紅総）派で，D村に逃げると，村に派遣された部隊がWXNの長男と娘を包囲して捕まえた。彼等は私に村の中で誰が聯絡站なのかと尋ねたので，私は村の中の「聯字号」を持つ人を教えた。彼等はWXNの長男を知っているかどうか尋ね，私が知らないと言うと，また，「聯字号」は銃を何発撃ったか尋ねたので，私は数はわからないと答えた。もともと彼等も総司派だったので，私が総司派であることがわかると，WXNの長男を連れて出て行った。

・武闘の真っ最中に，国が《七二三布告》を下達し，69軍が両派を完全にコントロールした。1968～69年頃，大隊の書記，公社の幹部，県の幹部が県城内に集まって大交歓会をやった。あの頃は食事の時以外は会議を開いていた。平遙の燐寸工場に1組の夫婦がいて，夫は総司派で，妻は聯絡站派で，夫婦の闘争は激しかった。

人民公社解体後

・1つの生産隊に7人の幹部がいて，10の小隊に70～80人の幹部がいた。さらに大隊の幹部を加えると，全村で100人余りの幹部がいた。支部書記は政治思想を管理する責任があるが，生産が上昇しないのも支部書記の責任だった。1986年正月，私は心労で体をこわしたので退職を請求したが，県政府は7月に私が書記候補者名簿を提出した後にやっと私の退職を批准した（当時，私がWYXに助けるように頼むように求め，短期間の代理書記となり，1987年に正式の選挙を行った）。私が退職した後，旧幹部と新幹部が両派に分かれて対立し，大騒ぎになった。村では数年間に3回も書記を交替させたので，村の行政は非常に混乱し，県政府もどうすることもできず，1994年に私に再び書記になるように要求してきた。私は10ヶ月書記をやったが，それまでの書記のやり方を変え，自分の考え方に基づいてやったので，新幹部たちとはうちとけることができず，書記の職を辞した。当時は，午前中に申請すれば，午後には批准された。当時，郷政府も私に書記を続けさせることを望んでおらず，郷の幹部は「煙酒」する（煙草や酒などを付け届けする）ように言ったが，私は毛沢東時代の幹部であり，ちょうど頭に呪文のかかった帯状の輪をつけられたように，自分自身の腐敗を許すことができなかったので，郷の幹部とは互いに仲良くなれなかった。1995年，LRXが後継の書記になった。

V．郝平・張永平による聞き取り

1）聞き取り対象者：D村幹部

聞き取り日時：2009年12月18日午後

聞き取り場所：D村大劇堂

概　況

・現在，耕地6,013畝のうち179畝が集団所有である。人民公社には10の生産小隊があったが，人民公社が解体した後，合併して5つの生産小組となった。

・玉蜀黍の栽培は1畝当たり30元の国家の補助がある。小麦は，旱魃になると，水位が下がり，生産量が減少する上に，手間暇がかかるので，栽培は少ない。副業として，元来20軒余りの油坊があったが，現在は3軒しか残っておらず，原料の多くは大豆や棉実で，油粕は飼料となる。家畜の飼育は，本来は乳牛が1戸平均1頭だったが，2008年にメラミン事件が起きて，乳牛数が減り，現在は2戸で平均1頭で，蒙牛の代理商人が牛乳を買付けている。鶏は4万羽余りいる。

・現在，20余りの深さ約150mの井戸があり，耕地は100％灌漑され，D村は汾東灌漑区に位置し，毎年汾河から水を汲んでいる。肥料は主に化学肥料と農家から出る肥料である。

・毎年，旧暦4月5日にD村の廟会があり，各種の劇

団を招いていた。

・3つのW家祠堂は，土地改革の時に集団のものとなり，現在は年越しの祭祀以外には大きな祭祀活動はないが，依然として族譜を保管している。

・初級中学は王家庄一中で勉強し，初級中学を卒業した90%の生徒は高級中学に進学し，平均10人余りが大学に合格している。

・D村には元来3つの廟があり，太原が解放された時，修築工事のために木材が必要だったので，廟を全て壊してしまった。D村の西南部に天主教会があり，文革の時に破壊され，後に修復された。

・1948年7月13日，Pが解放された。1977年7月には洪水があった。

2）WX

聞き取り日時：2009年12月21日午前

聞き取り場所：WX宅

WXの個人史

・1941年10月15日生まれ，巳年。

・1951～56年，D小学校で学び，1957年に太原七中（初級中学）で半年くらい学び（当時は高級小学から初級中学に進学する者は極めて少なかった），1958年春にP二中にもどり（1958年後期はP二中が農業学校となった），Pの燐寸工場で製鉄を行った。1960年に太原農業師範学院に進学し，1961年9月からPにもどって東泉郷の小学校教師を約4ヶ月やったが（月給は22元），後に辞職した。1964年から約3年間，D大隊第一生産隊の保管を務め，1974年には小隊の会計となり，1983～94年にはD大隊の会計となった。1994年に定年退職し，現在はW信用社の貸付事務員をやっている。妻はWLJ（1944年6月25日生まれ，申年）。

生産小隊

・1962年からは，生産小隊が基本的な計算単位となっており，生産された食糧は小隊を単位として計算され，「口糧」（配給米）と「分紅」（利益配当）を放出し，「公糧」（国家へ納める穀物）は小隊から城内の「糧站」（食糧の管理・分配機関）へ渡される。運送手段は馬車で，後にトラクターになった。労働点数1点は最多で0.5元にあたり，女性は少なくも毎月22日働いた。

その他

・1960年代，D村には5～6つの井戸があった。四類分子は毎朝道路を掃除していた。文革の時は農業生産は秩序があって整然としていた。副業として，醋坊（酢作り。第七小隊）・粉坊・磨坊（全小隊）・養豚場（D大隊）があった。

3）TBM

聞き取り日時：2009年12月21日午後

聞き取り場所：TBM宅

家　族

・5人兄弟で，2人の姉がいる。20歳の時に母親が死去し，38歳の時に父親が死去した。妻はLYL（1943年8月29日生まれ，未年）。長男（47歳）の妻はW村出身で，子供は一男一女（娘はすでに嫁いだ）。次男（45歳）の妻は梨村出身で，子供は一男二女。三男はもともと太原で肉を売っていたが，2001年に本村のWS子供に殺された。長女（43歳）はX村に嫁いで商売をしている。次女（37歳）は県城内に嫁いだ。

TBMの個人史

・1936年1月10日生まれ，子年。

・8歳の時，D小学校に入学し，5年生の時はLの学校で学び，6年生の時はN郷で学び，1956年に卒業した。1958年に窰頭で製鉄に従事した。1959年から約2年間，生活が困難だったので包頭の炭鉱で働いた（食堂でご飯を作った）。1961年，包頭からPに戻って結婚し，結納金が20元，家の中に4つの戸棚があるだけで，酒や料理も簡単で，全部で200元いかないくらい使った。

日本兵

・日本兵は二道街で家を焼き払った。私はかつてP古城東門外で日本軍のために炮楼（望楼を兼ねたトーチカ）を建造したことがある。

国民党

・1946年2月8日（旧暦），国民党二戦区部隊と八路軍遊撃隊がNで戦闘を行った。孝義県出身の徐瞎子が八路軍連長で，かつて劉少奇を鉄道まで護送したことがある。国民党統治時期，D郷の郷長は閻金亮で，解放前に道備村人1人を含む26人を殺し，解放後に捕虜になり，老爺廟の前で公開審判が行われ，村の入り口で銃殺刑に処された。国民党統

治期，P県の県長は尹遵党で，解放前に太原に逃げ（Pがすぐに解放された），後に自殺した。

土地改革以降

・1949年に土地改革が始まった。地主はWHRとWDLで，富農は3人いた。私の家は，土地改革の時，中農とされ，12人家族で12畝の土地があり，塩を作った。1斗（12斤）の麦は7斤の塩に相当した。

・1959年，食糧は全部上納し，一粒の食糧も配給されず，村民は蔬菜を食べることしかできなかった。

・裸足の医者は，1960年代にはWHZ・ZAF・TZX（獣医），1970年代にはWEH（落邑村）・LD（東泉）がいた。

文化大革命期

・当時，道備村には十数人の知識青年がおり，その中にYKH（女）がいて私の家でご飯を食べた。四類分子は，進学する時や兵隊になる時に差別され，労働点数は貧農より低く，つらい仕事をした。

・第8生産小隊では，労働点数1点は0.28～0.4元だった。

・1977年7月，平遙県で洪水があった。任成義（25歳，四川人）は集団の財産を救済するために犠牲になり，翌8月，抗洪慶功会で「英雄」と評価された。

4）GCY

聞き取り日時：2009年12月22日9:30～11:00

聞き取り場所：GCY宅

家　族

・兄は国民党第二戦区40帥に徴兵され，すでに病死した。妻（TGL，1933年生まれ）は1978年に家庭内の不和により，農薬を飲んで自殺した。長男（GWZ）はP県少管所に勤務し，次男（GWX）は介休市副書記で，三男（GWX）は37歳で病死し，四男（GWM）は祁県監獄に勤務し，五男（GWY）は石家荘の部隊にいる。長女は病死し，次女は孝義県の炭鉱に勤務し，三女は介休市土地局で働いている。

GCYの個人史

・1931年生まれ，申年。

・1944年（13歳），D小学校に入学し，1948年（17歳）正月に国民党第二戦区70帥に徴兵されて常備兵となり，汾陽に駐屯し，同年5月に解放軍と戦闘になり，負傷して捕虜となって交城山米牙庄で治療し，治癒した後にPに戻った。その時，Pはすでに解放されていた。太原を解放する時，解放軍に徴用されて太原市武宿一帯で担架を担ぎ，太原解放後に平遙に戻った。土地改革の時，家には16畝の土地があった。陽泉で運輸社に加入し，馬車で食糧や石炭を運んだ。1950年に結婚し，1958年に窰頭へ行って製鉄を行った。

・1960年に父母が逝去した。食堂で食べたのは1960年の1年間だけだった。当時の党支部書記はTKYで，彼が生産量の水増し報告をして大部分の食糧を国家に上納したので，村では食糧が不足し，庶民は1960年の困難の原因をTKYに帰し，1961年，WXHがTKYに代わって書記になった。当時の主食は玉蜀黍の窩窩頭だった。困難な時期に，楡次のD部長がPに小麦粉の麺や石炭などの救援物資を贈ってくれた。

・40歳代（1970年代）の時，第8生産小隊長をやった。当時の主要な農産物は玉蜀黍・高粱・小麦（1畝当たり1,000斤）・棉花で，各生産小隊には野菜畑があり，第8生産小隊には製塩場があった。第8生産小隊では，労働点数1点は0.5～0.7元だった。

・文革時期には四類分子に懲罰を加え，彼等には重労働を課し，毎朝，道路の掃除をさせた。

5）LDの妻

聞き取り日時：2009年12月22日11:00～11:30

聞き取り場所：D村衛生所（かつての老爺廟の隣）

家　族

・長女は山西省第二建築公司で「予算員」をやっており，次女は重慶一家公司で企画の仕事をし，三女は晋中学院で勉強しており（専門は経済管理），長男は山東泰安医学院で勉強している。

LDの妻の個人史

・1954年生まれ，午年。

・1972年に初級中学校を卒業し，1974年にはD小学校の教師となったが，1984年に辞職して医療に従事するようになった。LDはもともと東泉郷の裸足の医者で，1974年にD村に移住してきたが，当時は，人的移動を制限していたので，前もって申請して郷政府の批准を得る必要があった。

裸足の医者

・当時は「半工半医」の制度を実行していたが，具体的な実施状況は不詳である。当時の治療は主に漢方薬と西洋薬で，点滴注射は極めて少なかった。

五七指示

・1966年，毛主席の五七指示に呼応して，知識青年は農村に長期間定住して農民とともに働いたが，本村には上海から十数人の知識青年がやってきた。

6）LRX

聞き取り日時：2009年12月22日15:30～17:00

聞き取り場所：LRX宅

家　族

・兄（LRZ，1939年生まれ）は1958年に太原鉄路へ仕事に行ったが，1962年に本村に戻ってきた。弟（LRG）は1955年生まれ（未年）で，一番上の姉（LCY）は1929年生まれで，2番目の姉（LYY）は71歳の時に病死した。3番目の姉（LGX，1945年生まれ）はかつて婦女聯主任を務めていた。妻（LYM，1950年生まれ，寅年）は高級小学校を卒業した。長男（LSQ，1979年生まれ，未年）は初級中学校卒業後，本村で電気工をやっている。次男（LSS，1981年生まれ，酉年）は初級中学校卒業後，P環境衛生局で働いている。娘（LXJ，1986年生まれ，寅年）は天津工程技術学院を卒業し，現在，太原市青年創業服務中心で仕事をしている。

LRXの個人史

・1949年7月1日生まれ，丑年，60歳。

・1957年（8歳），D小学校に入学した。1963年（14歳），高級小学校を卒業して生産労働に参加した。1968年に河北省で入隊し，1973年に除隊してD村に戻ってきてD大隊第6生産小隊隊長になった（後に第10小隊長も務めた）。1980年，三幹会で両極分化の問題について当時の党支部書記の王孝仁と論争になり，後に生産小隊長を辞職した。1982～90年，太原鉄路公務段で工事を請け負い（Pの農民工100人余りを指揮した），1990年に村に戻ってきた。1993年に党支部副書記，1994年に党支部書記，1995年には現在の村民委員会主任兼党支部書記となった。

四清工作隊

・四清工作隊のFWX（隊長，霊石出身），VFZ（浙江省出身），W某（指導員），LPY（北京出身，山西医学院卒，後に上海に嫁いだ），ZSL（山西医学院卒，VFZと結婚）などが約2年間村にいたが，文革前に撤収した。

文化大革命

・文革時期，毛沢東思想宣伝隊は群衆を組織し，革命的な芝居を演じていた（よく村外へ出かけて演じたりもしていた）。WLRが秧歌（田植え歌）を改編し，TLCが二胡を弾き，WBが笛を吹き，WQが歌を歌った。

・文革時期，P県は総司令部と聯絡站の両派に分かれ，聯絡站の総本部はP中学にあり，LRXがD村聯絡站の頭目で，かつて陳永貴がヘリコプターに乗ってPにやって来て聯絡站を指揮して総司を攻撃したことがあった。

・紅衛兵は石像の獅子をぶち壊したが，農業生産は正常に行われた。

・「農業学大寨」では主に大寨精神を学び，村の西部で水路を修築し，土地を深く耕した。1967年に大寨に行った。D村には専門の林業隊があった。

・私が第6小隊長の時，第6小隊には製塩・金属加工・製炭などの副業があった。第6小隊の労働点数1点は0.4～0.6元だった。

農業の機械化

・D大隊には75式のトラクターが1台あったが，1973～75年に第7小隊がトラクターを1台購入し，1977年頃にD大隊がトラクターを2台購入した。

D村の党支部書記

・JZ［女］（1949～50年）→WHS［文盲］（1951～52年）→WXH［1924年2月生まれ，小学卒］（1952～54年）→WHS（1954～55年）→HLY［1927年9月生まれ，初級小学卒］（1955～56年）→GZL［1918年4月生まれ，初級小学卒］（1956～57年）→TKY［文盲］（1957～60年）→WXH（1960～66年3月）→DCF［女，1939年3月生まれ，小学卒］（1966年3月～7月）→WXR［小学卒］（1966年7月～1986年7月）。

D村の村長

・WXN［初級小学卒］（1949～50年）→WXH（1950～51年）→GZL（1951～53年）→HLY（1954～55年）→GZY（1955～56年）→TKY（1956～57年）→TZS［1919年12月生まれ，初級小学卒］（1957～60年）→WZX［1932年8月生まれ，初級小学卒］（1960～71年）→JSL［1937年5月生まれ，文盲］（1972～77

年)→LTW[1945年9月生まれ，小学卒](1978～81年)→WZX(1982～86年)。

7）LRXの母親

聞き取り日時：2009年12月22日17:00～17:30

聞き取り場所：LRX宅

LRXの母親の個人史

・1912年生まれで，97歳になり，現在，本村内の最高齢者だが，白内障を患い，耳も遠くなっているので，十分な聞き取りは不可能である。日本兵はとても怖かった。日本兵は村にやって来て見るもの全てを持って行った。

・土地改革の時は，貧農に区分され，もともと4畝の土地を所有していたが，5～6畝の土地を分配された。

・1960年，家には食べるものも飲むものもなく，食事を作る時間になってお湯を沸かしたが，ご飯も料理もなく，非常に苦しかった（泣きながら話した)。

Ⅵ．常利兵・李嘎による聞き取り(注3)

1）TWY

聞き取り日時：2009年12月19日15:40～

聞き取り場所：TWY宅

家　族

・子供は3人の息子と1人の娘がいて，息子はみな結婚し，長男と次男は8間の大院のうちの4間ずつを使用し，三男は三道街にある古い家に住み，私たち夫婦は東南の北街の家に住んでいる。現在，長男は本村で鋼材市場を開設し，さらに17頭の乳牛・肉牛を飼育していたが，数日前（2009年11月9日～10日）に大雪が降って4頭が凍死した。次男は運輸業に従事している。三男は他の人といっしょに力仕事をしている。娘は南政村に嫁いだ。

TWYの個人史

・23歳で結婚し，当時，妻は18歳だった(現在60歳？)。結婚には200～300元のお金を費やし，2枚の布団を準備した。妻は本村の出身だが，結婚前にはお互いを知らず，仲人を通じて紹介された。結婚の時，自転車で家まで来たが，当時は自転車を買うことができなかったので，他人から借りた。また，結婚の時に着た新しい中山服も他人から借りたものだった。妻はコールテンの服を着ていた。妻の父親は小隊長だったので，家庭条件は良かった。

・24～25歳（1968～69年）頃から約10年間にわたって第7小隊長を務めた。当時，村は10の小隊に分かれていて，主に小麦・玉蜀黍・高粱を栽培していたが，それ以外にも生産大隊では養豚や粉条（春雨）作りなども行っていた。

1960年代の状況

・1960年前後は食糧が不足していたので，糠さえ食べることができなかった。お腹が空いて地面にしゃがみ込んだら起きあがる気力さえなくなっていた。1957～58年，村民はみな製鉄運動にかり出された。困難な時期は2～3年続いたが，1960年が最も苦しかった。当時，生産大隊には75馬力のトラクターが1台しかなかった。

・1960年には食べるものがなかったので，苦菜や草の根を食べた。本村では100人以上が餓死したが，その多くは老人だった。餓死者が出た後，楡次地区から工作隊が派遣され，数ヶ月にわたって三道街で豆乳のスープを配給した。

・当時，食堂で作ったのは玉蜀黍の「皮皮窩頭」で，1人当たり1食につき1個だったが，1日に3食は食べられなかった。労働に参加した人は，あまりにもお腹が空いていたので，畑で玉蜀黍を生なままでこっそりと食べた。妻の語るところによれば，ある人は結婚指輪を付近の小徐村へ持って行って人参と交換したという(指輪1個で10本の人参と交換することができた)。

1970年代の状況

・村には上海からやって来た十数人の知識青年がいた。当時，第7小隊長を務めたが，第7小隊だけが副業として酢を作った。

・1977年に付近の10ヶ村が共同で沙河の治水工事を行い，アルカリ地を改造した。工事は3ヶ月余り続けられ，徐々にアルカリ度が下がっていった。

1980年代の状況

・1987～88年頃，搾油機1台を平遙農機公司から1,600元で購入して自分の家で油坊を開設した。原料の大豆は1斤0.3元で購入し，大豆油は1斤1.2～1.3元で売り，大豆粕（鶏などの飼料となった）は1斤0.2元で売った。大豆油と大豆粕は村外から来

た人が買っていった。油房を15年間続けて本村で最初の万元戸となった。実は，1960年代に糧食を闇で売ったことがあった。1968～69年頃，平遙城内の市場で1斤0.3元で大豆を買って王家庄で1.7斤の玉蜀黍と交換し，さらにその玉蜀黍を清徐へ運んで1斤0.3元で売った。また，自転車で1回200斤余りの小麦を運んで40元余りを儲けた。このような経験が油房を開設することに影響を与えた。

詐欺事件

・7～8年前，十数万元をだまし取られたことがある。当時，ある人に高利で十数万元を貸したが，この人が突然お金を持って逃げてしまった。後に捕まったが，癌になっており，その妻もすでに捕まって監獄に入れられていたので，苦労して得た金を取り戻すことができなかった。

2）TYF

聞き取り日時：2009年12月21日10:00～

聞き取り場所：TYF宅

TYFの個人史

・午年生まれで，今年，67歳になった。9歳（1951年）で小学校に入学し，6年間学んだ（初級小学4年間，高級小学2年間）。1956～57年頃，村には小学生が300人余りいて，初級小学生は全て本村人だったが，高級小学にはH村・D村・X村などからも来ていた。後に，高級小学は廃止され，Wに県立第5高級小学が開校された。1955年から高級小学に進級したが，その時，村の高級小学は民営となっていたので，毎月0.7元の学費が必要だった（公立の学校であれば1学期の学費は1元余りだった）。15歳の時，高級小学校を卒業した後，試験を受けて初級中学（P二中）に進学した。当時は，ちょうど反右派闘争・「整風整社」運動の最中で，1957年前半には大字報（壁新聞）を書き，1957年後半には大いに議論し合った。当時は，別の同級生が書いたものを見て，自分も書いた。もし書かなければ自分が遅れていると思ったので，教師に関する大字報を書いた。その後，教師たちの間でも大字報が書かれた。1958年，P二中は平遙農校に変えられ，1958年後半にはすでに混乱し，基本的には授業は行われなくなった。

村名の由来

・呂后がD村とX村を遊歴した時，本村がよく手配や接待をしたので，「道徳具備一些」と評価されたのがD村の村名の由来だという。T家の先祖に商売した者はおらず，みな農業をやってきた。

天主堂

・T家のある人が信者になってから，一族との間に矛盾が生じ，一族から追放され，祖先を祀る活動に参加することを許されなくなった。

大躍進運動

・1958年冬，土法製鉄運動が行われ，学校の裏側に製鉄炉が建設され，学校のストーブを全て鋳つぶした。学校の食堂でご飯を作った。また，土地を深く耕したが，生産量は上昇しなかった。1959年に同級生たちが静楽県に行って汾河のダムを作り，1961年には私も孝義県へ行って孝河ダムを作った。本来の1ヶ月の食糧配給量は，初級中学生が37斤，高級中学生が38斤だったが，1959年にはそれぞれ33斤と34斤に減らされた。1961年後半には村に戻され，1962年には学校が閉鎖され，生産小隊で仕事を始めた。

四清運動

・少し儲けたので，投機取引をした者というレッテルを貼られた。1965年，村へ工作隊（霊石の人や山西医学院の人など10人余り）がやって来て，群衆を動員して相互に摘発し合ったが，ある村民がこの機に乗じて個人的な恨みをはらした。1966年に文化大革命が始まると，それぞれの元の所属先に戻って文革に参加したので，工作隊は解散した。

沙河の治水工事

・沙河は1956年に第1回目の治水工事が行われ，1965年には2回目の治水工事が行われ，1977年に行われた第3回目の治水工事は最大規模のもので，私も参加した。この時は，王家庄・洪善・香楽など4～5つの郷鎮も参加した。

3）ZXY（TLQの妻）

聞き取り日時：2009年12月21日16:15～

聞き取り場所：ZXY宅

ZXYの個人史

・17歳の時，汾陽城内の教会でTLQと知り合って嫁いだ。2人ともキリスト教信者である。当時，TLQ

は汾陽城内の教会の神父だった。夫のTLQは20年余り前に80歳で死去した。1948年の解放後，夫婦で汾陽から本村に戻ってきて農業に従事した。

家　族

・長男（TH，57歳，巳年，妻は汾陽出身）には3男1女，次男（TY，55歳，未年，妻は東游駕村出身）には3人の息子，三男（TL，52歳，妻は南鄭出身）・四男（TP，36歳，寅年，妻は尹村出身）・長女（TZE，60歳，寅年，東游駕村に嫁いだ）には1男1女，次女（TYE，48歳，寅年，清徐六合村に嫁いだ）には3男3女，三女（TJE，44歳，午年，清徐六合村に嫁いだ）には1男2女，四女（TLE，42歳，H村に嫁いだ）には3人の娘がいる。

カトリック信者

・D村の教会が食糧庫として使用されるようになってからは，信者は各家庭の中で活動し，Pへ行って活動した時もあった。夫の父親（TYK）は医者で，キリスト教の信者だったが，私がD村に戻ってから10年余りして死去した。教会付近のT家はみな力仕事をして生活しており，村の北部のT家とは同じ一族ではない。信者と非信者はふだん付き合いがある。四清運動の時，教会が破壊された。現在，双方がともに信者でなければ，結婚できないというわけではない。結婚した時は信者でなかったが，結婚してから信者になった者もいた。T家の信者で本村の人と結婚した者はおらず，みな村外の人と結婚している。T家だけではなく，F家やW家にも信者がある。

4）TYC

聞き取り日時：2009年12月22日9:38～

聞き取り場所：TYC宅

村名の由来

・西太后が行幸し，D村とX村を通過する時，本村民が道端できちんと準備をして迎えたので，「D」村の名がついた。

廟と祠堂

・かつて本村には多くの廟があったが，解放軍が太原に侵攻した時に木材が必要だったので，いくつかの廟を壊し，また，1955年以降は井戸を掘るのに煉瓦が必要だったので，いくつかの廟を壊した。現在のTYCの家屋の後ろにT家の東門楼があり，その西方にT家の西門楼があり，西門楼の東方にT家の祠があったが，解放軍が太原に侵攻した時，木材が必要だったので，その祠の正殿が壊され，現在，祠の跡地には民家が建てられている。現在のTWYの家屋の後ろに中寺と呼ばれた廟があり，鉄製の神像が奉られていたが，土法製鉄運動の時に鋳つぶされた。当時はH家の祠もあった。村の東部の護村堰には三官廟が建造された。村の周囲に（東側では今の自動車道の内側に2～3m離れて）護村堰があり，その間は溝だった。その堰の堤は高さが2～3m，底部が10m余り，上部が4～5mあった。

TYCの個人史

・小学校は暇な時に行って，農作業が忙しければ行かなかった。家が貧しかったので，あまり学校には行かなかった。

・14～15歳で労働に参加したが，1960年には食べていけなかったので，天津の部隊に入隊した。1963年に入党し，1966年には除隊して本村に戻った。

・1967年に結婚した。200元の結納金を出した。自分の自転車で妻の家まで迎えに行った。妻は私より10歳年下で，林泉村（D県東南の卜宜郷にあり，本村から20里余り離れている）の出身だった。妻のおば（本村に嫁いで，私の家の隣に住んでいて同じ生産小隊に属していた）が紹介してくれた。結婚式では10のテーブルが並べられた宴席が設けられたが，ご祝儀は1人1～2元で少なかった。私は中山服を着て，妻が着るものも全て私が買った。当時は，軍用ラッパを吹くのが流行していて，村の入り口で待っていて新婦がやって来ると軍用ラッパを吹き始めた。

家　族

・7人兄弟のうち，私が長男で，姉妹はいない。

・3人の息子と2人の娘がいる。1番上が長女で，P城内で働いている。2番目は長男で，3番目の次女は自動車を買ってP城内で仕事をしている。4番目の三女は太原に嫁いだ。5番目が次男である。

・村の南部に住むキリスト教信者の田家とは同じ一族ではない。

建国前の状況

・建国前，本村南部には商売をする者が多かったが，本村北部には農業に従事する者が多かった。

・第二次国共内戦時期，汾河以西が共産党軍の支配

下にあり，本村を含む汾河以東が「二戦区」の地盤で，国民党軍が護村堰辺りで戦闘を行ったことがあり，壮丁を拉致して軍隊に入れた。また，村民が「二戦区」の人に村公所（老爺廟）まで食べ物を届けると（私も届けに行ったことがある），彼等はご飯が良くないと言って蹴飛ばして捨てた。

土地改革

・1950年に土地改革が始まった。本村に派遣された工作隊が，各農家に入ってきて階級区分をし，WLとWZZが地主，WLGが富農とされた。老劇台で開かれた批判大会で批判された後に本村の西側でWZZとWLGが銃殺された。この2人は庶民を搾取したわけではないが，土地改革に反対し，いつも反動的なことを言っていたので，処刑された。没収された地主・富農の財産は全て農民協会のものになった。農民協会は現在の供銷社のところにあり，もともとは富農のZAHの家だった。

朝鮮戦争

・本村からは3～4人が志願兵として出兵した。実は，庶民は出兵したくなかったが，3人の子供がいれば1人，5人の子供がいれば2人を徴兵するという規定に従って義勇軍に参加した。歓送会は非常に熱烈に行われ，馬に乗り，赤い花をつけ，銅鑼や太鼓を打ち鳴らした。現在の村治保主任の王棟の父親は義勇軍に参加し，80歳を超えた今もなお健在だが，朝鮮の戦場で犠牲になった者もいる。

3年の困難な時期

・100人余りの人が餓死し，非常に多くの人が急性腎臓炎で体がむくんだ。当時の本村の深刻な状況は周辺の村の中でも突出していた。水はあって灌漑はできたが，食糧を生産できず，塩害もひどかった。また，人為的要素も深刻な状況を生み出す原因の1つになっていた。本村に派遣されてきたLXWが目標を達成しようと（無理を）して多くの餓死者を出してしまった。

大躍進政策

・村民は北営（卜宜郷？）や段村（半丘陵地）で労働に参加し，作業場で寝食をした。普洞（山地）の土法製鉄ではビニールハウスの中で寝た。作業場には監視人がいて，休んでいる者を見付けると殴りつけた。連長や営長なども任務が完成できなければ体罰を加えられるのではないかと恐れていた。しかも，普洞の生活環境は不衛生極まりなかった。

沙河の治水工事

・3～4回，治水工事をやったが，1977年は最も規模が大きかった。1977年夏に大雨によって大洪水が発生した。沙河に関わりを持つ全ての村が治水工事に参加した。秋の収穫期に始めて旧暦11月までかかった。川幅を広げ，河底を深くする作業で，全て手作業だった。

注（訳者）

(1) 日本側の調査報告書としては，内山雅生・三谷孝・祁建民「中国内陸農村訪問調査報告(1)」（長崎県立大学国際情報学部『研究紀要』第11号，2010年12月），田中比呂志「華北農村訪問調査報告(1)」（『東京学芸大学紀要（人文社会学系Ⅱ）』62集，2011年1月），弁納才一「華北農村訪問調査報告(3)－2009年12月，山西省Ｐ県の農村」（金沢大学環日本海域環境研究センター『日本海域研究』第42号，2011年2月）がある。

(2) 訪問者は，山西大学側が行龍・郝平・常利兵・馬維強・李嘎・毛来霊・孫登洲・張永平，日本側が三谷孝・内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志（年齢順）で，当該箇所は李嘎が整理した。

(3) 当該箇所は李嘎が整理した。

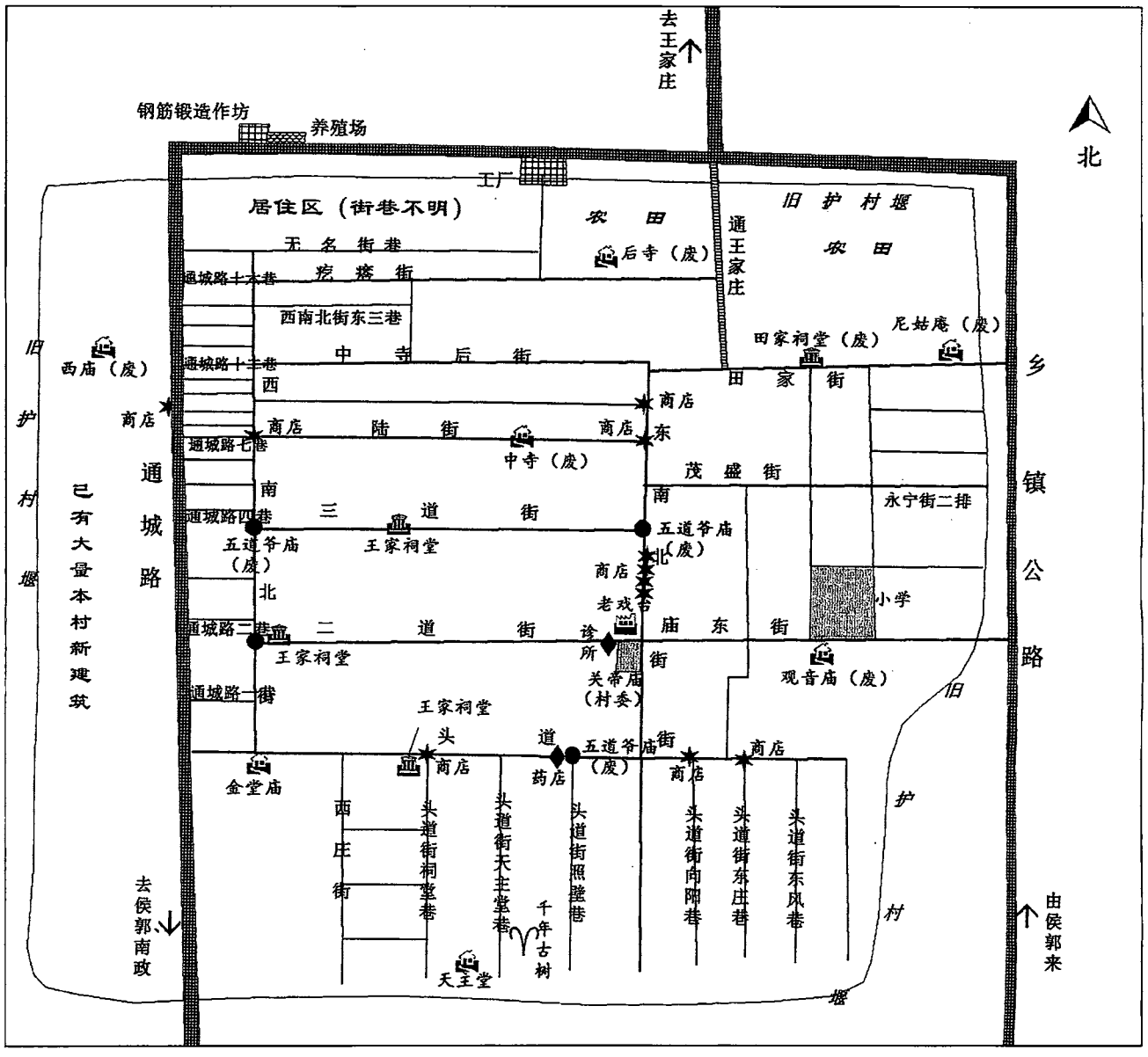

图1　P県D村の地図.

Fig. 1　Map of D Village in P County.